

■令和7年9月2日 建設委員会 県内調査

I 京奈和自動車道 橿原高田 IC（橿原市新堂町）

【調査項目】

京奈和自動車道橿原高田 IC 事業実施箇所について

【調査概要】

京奈和自動車道大和御所道路の橿原高田 IC の事業実施箇所について、橿原市新堂町の工事現場を訪問し、奈良国道事務所より、事業の説明を受けた後、現地を調査した。

＜京奈和自動車道大和御所道路大和区間の概要＞

京奈和自動車道大和御所道路大和区間は、京都と和歌山を結ぶ延長約120kmの京奈和自動車道のうち、郡山下ツ道 JCT を起点とし、奈良県下の中核都市である大和郡山市、橿原市を含む3市3町を通過し、大和高田バイパスに接続する約13.8kmの区間である。平成18年度の部分供用により西名阪道交差部から新堂ランプ（大和高田バイパス）の平均所要時間は、大和区間を利用した場合約18分となり、開通前に国道24号を利用していた場合の約40分と比べて、約1/2に短縮された。また、国道24号の慢性的な渋滞により県内の南北方向の所要時間はばらつきが大きく定時制が確保されていなかったが、本区間の部分供用により奈良公園から明日香村までの所要時間のばらつきは約70分から約45分に低減された。このように京奈和自動車道の整備により、県内南北移動の交通環境に大きく改善がみられた。令和7年度現在も橿原 JCT を含む橿原北 IC から橿原高田 IC 間の早期整備を目指し、事業が進められている。

＜橿原 JCT の整備について＞

現在、京奈和自動車道大和御所道路は橿原高田 IC から橿原北 IC の区間が未開通であり、特に和歌山方面から北上してきた車両が橿原高田 IC と大和高田バイパスとの交点である新堂ランプとの間で交通集中を起こし、御所 IC までの約3kmに渡り慢性的な渋滞が発生している。この交通集中を解消するため、令和8年春の開通を目標に京奈和自動車道と大和高田バイパスとの接続ランプの整備事業が進められている。橿原 JCT の整備現場では CIM モデルを活用した現場管理を実施しており、特に夜間施工の安全かつ高速化に大きな成果を出している。

＜質疑応答＞

Q：橿原高田 JCT 全体の完成時期はいつか。

A：現在工事中の BC ランプは令和 8 年春頃完成を予定。その後 AD ランプに着工。

用地買収は完了済み。京奈和自動車道の本線は JCT で最も高い位置に設置されるため、着工は最後になり、完成時期は未定である。



Ⅱ 窪田遊水地（生駒郡安堵町窪田）

【調査項目】

窪田遊水地事業実施箇所について

【調査概要】

大和川窪田遊水地の事業実施箇所について、生駒郡安堵町窪田の工事現場を訪問し、大和川河川事務所より、事業の説明を受けた後、現地を調査した。

＜大和川遊水地事業 窪田遊水地の概要＞

大和川は笠置山地を水源として初瀬川溪谷を下り、奈良盆地周辺の山地より流入する河川と合流ししながら西流する、幹線流路延長 68km、流域面積 1,070km²の一級河川である。奈良県と大阪府の府県境には亀の背と呼ばれる狭窄部があり、この狭窄部の上流域は、勾配の緩い地形特性と狭窄部の堰上げにより、洪水時に大和川の水位が上昇し、洪水はん濫や内水浸水等の被害を受けやすい特性を有している。特に昭和 57 年 8 月の降雨により大規模な洪水が発生し、奈良県内でも亀の背上流域で大きな被害を受けた。洪水対策として大和川中流域では遊水地の整備が進められている。遊水地は洪水を堤防外に一時的に貯留

することで河川水位の上昇を抑える施設で、中流部の奈良盆地の治水安全度を早期に向上させ、下流部の河内平野への流出量を抑えることができるため、工事費用や工期、地域への影響等を総合的に判断すると、大和川の治水対策に最適の方法と考えられる。

(整備状況：R7.6 末)

- ・ 周囲堤 約100m／全長1,400m
- ・ 囲ぎよう堤拡幅盛り土 全長180m (未施工)
- ・ 越流堤 全長80m (未施工)
- ・ 樋門 1基完成 3基工事中／4基
- ・ 水路工 320m (完成) 780m (未施工)
／全長1,100m
- ・ 遊水地内掘削 約84,000m²／310,000m²
- ・ コンクリート張工 約120,000m² (未施工)
- ・ 河川防災ステーション 基板盛土 (工事中) 施設整備 (未施工)



<質疑応答>

Q：樋門の管理は自動で稼働できないのか、手動ならば誰がやるのか。

A：遠隔操作と現地での手動操作の両方が可能。ただし、原則は現地の状況をみて稼働させることが適切であるため、現地操作が基本と考える。
現地操作は、決まっているわけではないが、地元の方をお願いしたいと考えている。

Q：遊水池の普段の使用用途は考えているのか。

A：今は何も決まっていない。底面は構造上、コンクリート張りを行う予定である。



Ⅲ 京奈和自動車道 八条地区橋梁（奈良市八条）

【調査項目】

京奈和自動車道八条地区橋梁事業実施箇所について

【調査概要】

京奈和自動車道大和北道路の八条地区橋梁事業実施箇所について、奈良市八条の工事現場を訪問し、奈良国道事務所より、事業の説明を受けた後、現地を調査した。

＜京奈和自動車道 大和北道路の概要＞

京奈和自動車道大和北道路区間は、京都と和歌山を結ぶ延長約 120 km の京奈和自動車道のうち、京奈道路の木津 IC から西名阪自動車道までの区間、約 12.4 km の区間である。大和北道路のうち、奈良 IC から郡山下ツ道 JCT 間の延長 6.3 km が平成 21 年 3 月に事業化され、残る奈良北 IC から奈良 IC 間の延長 6.1 km も平成 30 年 4 月に事業化された。大和北道路の整備により国道 24 号線の渋滞緩和、交通事故減少、走行時間短縮、定時制確保など沿線地域の活性化に寄与すると期待されている。

＜八条地区橋梁の整備について＞

現在、京奈和自動車道大和北道路と国道 24 号線、岩井川が交差する八条地区橋梁の工事に着手している。大和北道路の導入空間確保のために、国道 24 号線の八条高架橋の既設橋脚撤去が必要となるため仮受けの橋脚設置を計画している。また大和北道路の本線橋（岩井川渡河橋）下部工着手のため、既設の市道橋の撤去、迂回路の設置等に着手している。

＜質疑応答＞

Q：現場はカーブになっているが、道路は時速何 km を想定して設計されているのか。

A：設計上は時速 100km である。ただし制限速度は警察協議で決まるので、すでに設定されている京奈和も設計上は時速 100km でも制限速度は時速 70km になっていることから、おそらく同様に設定されるのではないかと推察される。

Q：工事はいつごろまでかかるのか。

A：この現場は令和 9 年度で竣工する予定だが、供用時期は未定である。

